

2015年10月17日(土)

## 安心できる年金へ“一揆” 全国で行動 東京に3000人

「安心できる年金つくれ」「戦争法を廃止しよう」「安倍政治を許さない」—。年金者の地鳴りのようなコールが会場に響きます。若い人も高齢者も安心できる年金をと「年金者一揆2015」が16日、全国各地でおこなわれました。全日本年金者組合と全労連が東京・日比谷野外音楽堂で開いた中央集会には3000人が参加。34万8462人の署名を国会に提出しました。

年金者一揆は10回目。年金削減は生存権と国の社会保障義務を定めた憲法25条に反する、として始めた「年金引き下げ違憲訴訟」の原告は3500人を超えています。

年金者組合の富田浩康委員長、全労連の小田川義和議長がそれぞれあいさつ。富田委員長は「年金を削減し続ける政治は断じて認められない。高齢者の心意気を一揆で示し、民主主義を守る運動の一翼を担おう」と呼びかけました。

資生堂・アンフィニの「非正規切り」裁判をたたかう池田和代さんは「労働者を安易に切り捨てる社会は貧困化を加速させる。だれもが安心して正社員になれる社会を」と発言。日本民主青年同盟の田中悠委員長は「若者、高齢者、全世代の一揆で安倍政権を倒そう」と訴えました。

日本共産党の田村智子参院議員が来賓あいさつ。参加者は「年金が減って存立危機事態」「戦争を平和と読ますアベ政治」などと大書したむしろ旗を掲げて、銀座をデモ行進しました。



(写真) 壇上からのアピールに応える年金者一揆の参加者＝16日、東京・日比谷野外音楽堂

2015年10月23日(金)

## 医療従事者ら国民集会

### 「憲法いかし 命まもれ」

社会保障の充実や医師・看護師・介護職員の大幅増員と処遇改善、戦争法ストップなどを求めて22日、「憲法いかし、いのちまもる国民集会」が東京・日比谷野外音楽堂で開かれました。

札幌市内の病院で働く看護師の女性(29)は「自分が戦争の当事者になってしまう恐怖を感じる。国会前行動に2回行って、人任せでなく自分が声をあげなきゃと思うようになった」と参加。

「憲法違反の法律いらない」

「看護師増やせ」と3500人余がコールを響かせて、銀座をパレードしました。

集会は11回目。全国保険医団体連合会や全日本民主医療機関連合会、日本医療労働組合連合会(医労連)など11団体の実行委員会の主催です。主催者あいさつで医労連の中野千香子委員長は、医療や介護の充実をと運動して数々の成果を得てきたものの、財界やアメリカの圧力を受けた安倍政権による攻撃はさらに強まっていると強調。『「いうこと聞かせる番だ、国民が」』『「いうこときかないなら、とっととやめてくれ」』と突きつけるときだ」と訴えました。

呼びかけ人2氏があいさつし、現場からリレートーク。精神科医で立教大学教授の香山リカさんが「みんなで声を上げれば、何かが変わる」と力強いエールを送ります。日本医師会会長のメッセージを紹介。日本共産党の清水忠史衆院議員と倉林明子参院議員があいさつしました。



(写真) 要求を掲げて歩く「憲法いかし、いのちまもる10・22国民集会」参加者＝22日、東京都千代田区

2015年10月29日(木)

## 生活保護充実 25条守れ

### 日比谷野音 大集会に4千人超

「生活保護アクション 25条大集会」が28日、東京・日比谷野外音楽堂で開かれました。「生活保護制度が始まって以降、最大規模」という4千人超が参加し、生活保護制度と社会保障制度の根幹である憲法25条を守り、誰もが安心できる社会をつくろうと、確認し合いました。主催は同実行委員会。

共同代表の尾藤廣喜弁護士はあいさつ

で、「深刻な貧困の状況を改めるには、貧困の原因に合わせた最低賃金の大幅引き上げや基礎年金の引き上げ、医療費自己負担の引き下げと、生活保護の充実こそが必要だ」と強調。「9条と25条は車の両輪だ」と述べ、幅広い人たちが連帯し、25条の実質化を求めようと呼びかけました。

共同代表の井上英夫金沢大学名誉教授があいさつ。各地の保護利用者やソーシャルワーカー、年金生活者、非正規労働者などが訴えました。

日本共産党の清水忠史、堀内照文の両衆院議員と小池晃、田村智子、辰巳孝太郎の各参院議員が参加。小池議員があいさつし、安倍自公政権が財源を理由に保護費を削減するのは憲法25条違反だと批判し、「憲法無視の政府を倒すために野党は力を合わせて憲法を取り戻す」と述べました。民主、維新、生活、社民各党の国会議員が参加しました。実行委員会は同日、厚生労働省に、生活保護と社会保障のさらなる削減・改悪をしないように求める要望書を提出しました。



(写真)「国は憲法を守れ」とシュプレヒコールする参加者=28日、東京・日比谷野外音楽堂

## 25条大集会・集会アピール案

貧困は、お金だけの問題ではない。  
貧困は、人間の尊厳を破壊する。  
人間関係を奪い、社会や他者への信頼も奪う。  
教育の機会、医療へのアクセス、住む権利……  
住民登録を奪い、選挙の機会も奪う。  
人並みの生活、そのすべてを奪い去る。

そして、自分は生きていい、価値ある人間なのだという自己肯定感も奪う。  
自分に少しくらい迷惑をかけても助けられていい人間なのだ、  
SOSを発信していいのだ……。そんな気持ちも奪う。  
貧困が奪うもっとも大きなものは、生きる上で一番大切かもしれない「助けて」  
という言葉ではないだろうか。

私たちは、無差別平等に生きる憲法と制度を持っている。  
貧困に命を奪われないためのしくみはある。  
私たちはもっと「助けて」と言っていていいし、  
私たちはもっと「助けて」と言われていい。  
生活保護制度という命の砦を、私たちは守り、  
より良いものに作り変えていく義務がある。

誰一人、貧困に殺されない社会。  
そんな当たり前のために、私たちは声を上げ続ける。

2015年10月28日  
25条大集会参加者一同